

応募にあたって知っておいて欲しいこと

応募にあたっては、所属先(地方競馬場の厩舎)を決めてからでも、あるいは決まっていなくても構いません。しかし、大切な人生の目標としてこれから進む道ですので、競馬社会を良く理解して応募して下さい。

1 騎手という職業

騎手は、プロのスポーツ選手です。二年間でプロの道を目指し、フェアでプレーする精神を身につけます。馬に騎乗する技術だけではありません。公正に実施される競馬の中で、常に注目される存在です。

2 体重調整

騎手にとって体重を調整することは最も重要なことの一つです。当センターでは教育期間中、個人差はありますが2~4 kg増加しますので、各々の騎手候補生に対し、年齢区分毎に規定体重を指定し、修了時の規定体重 49.0 kgに設定しています。

騎手候補生は、栄養管理された毎日の食事以外に、自主的に体を動かし、プロの騎手として通用する体づくりを目指しています。

3 候補生の1日の流れ

当センターの起床時間は午前5時半。午前中に3頭の実技訓練と、午後から騎手に必要な教養を得るため学科の授業があります。その内容は法規、馬術、馬学、調教、管理、衛生と多岐に渡り、プロスポーツ選手を目指すためメンタルトレーニングや、体の使い方を習得するためフィジカルトレーニング、武道(剣道)を通して礼儀作法を学びます。

4 修了生の感想文から(一部抜粋)

◆第105期騎手候補生T君(令和6年3月修了)

2年前、幼い頃から追いかけてきた夢のスタートラインに立つために入所した。この2年間は外の世界の情報はほとんど入らないし、好きなことも十分には出来ず、外出も2週間に1回。入所前に聞いていた厳しく制限された生活は、ほぼ間違いではなかった。でも自分は、これくらいのことは覚悟して入所してきたし、ここでの生活が嫌ではなかった。

入所した当初は生活に慣れるまでに時間がかかった。初めは自分の身体のことかわからず、とにかく毎日走ったり食事も残したり、体は限界で精神的にもやっていたか不安だった。5月に日光旅行があり、同期と仲も深まったことで精神的にも落ち着いてきた。それからは訓練に身が入っていくようになった。上手く乗れることよりも圧倒的に失敗することの方が多かった。それでも腐らずに必死になって考えたりしていたことが自分の成長だと思う。

競馬場実習に行くと自分の未熟さを痛感した。行動、態度や礼儀など学ぶことばかりで周りに迷惑をかけてしまった。もっと自分を磨き上げていくことが必要だと感じた。

夢を叶えるために支えてくれた両親には感謝しかない。期待に応え一流の騎手となって恩返しをする。そして2年間お世話になった先生方や訓練馬。ここでの失敗から学ぶこと

がたくさんありました。本当にありがとうございました。

◆第 105 期騎手候補生 Y 君（令和 6 年 3 月修了）

入所して最初の 1 ヶ月はまずセンターの生活に慣れるのが大変だった。決められた日課どおりに動くなど、時間に迫られる生活が続いた。乗馬はなかなか自分の思うように馬をコントロールできず苦勞した。

それでも週末の外出やイベントなどがあり、普段食べることの出来ないものを食べられて、今までの食事のありがたさが分かったような気がした。

競馬場実習は競馬場の生活に慣れるのが大変だった。調教で乗る頭数もセンターの時よりも圧倒的に多いので体力面で苦勞した。それでも調教師の先生や騎手からのアドバイスや実際に競馬を見て技術面も成長できた。また、常に笑顔で挨拶することは心掛けた。実際の騎手の生活を知ることができてとても勉強になった。

実習が終わりセンターへ戻ると免許試験の勉強などがあり、毎日忙しくあっという間に過ぎた。

2 年間、自分たちを支えて指導して下さった先生方や訓練馬のみんな、本当にありがとうございました。ここで学んだことをこれからも忘れず、騎手としてデビューして立派な騎手になります。感謝！